

社会福祉法人 静岡福祉事業協会

母子の自立支援にも 役立てられている競輪補助事業



母子支援施設千代田寮の敷地内に完成した自立訓練棟「ひまわり」。

今回は静岡市内にある静岡福祉事業協会が運営する母子生活支援施設「千代田寮」を訪問しました。

こちらの施設では、未婚や離婚などで配偶者がいない、または配偶者とともに生活することが困難など、様々な事情で支援を必要とする母親とその児童に居室を提供し、母子の自立支援を行っています。現在は県内外から26世帯が入寮し、児童は乳幼児から高校生まで40人ほどが生活を送っています。

この千代田寮の敷地内に、競輪の補助を受けて昨年3月に完成したのが自立訓練



内部はフローリングの部屋が2つと、掘りごたつ付きの和室が1つ。



調理設備もあり、ここで子供たちが実習を行ったりも。



天井が高く、明るく開放的。全体的に感じる木のぬくもりが心地いい。



今回お話を聞かせて頂いた千代田寮長の宮本登さん(左)、母子支援員の田村慎司さん(中央)、事務局主任の蒔田順さん(右)。



真剣な面持ちで説明を受ける静岡支部の田中八郎支部長。

棟「ひまわり」。これまで寮内には児童たちが集まって勉強できるようなスペースが少なく、「子供たちが落ち着いて学習できる場を」という思いから作られたのだそうで、主に小学生たちが学校から帰寮後、学習のために利用していますが、勉強だけでなく必要最低限の生活習慣を身につけてもらおうと、自分たちで清掃をしたり、備え付けのキッチンで調理実習なども行っているのだとか。また、母親同士の懇親会や子供たちの誕生日会なども開かれ、ボランティアや地域の方々も交えながら、交流の場としても活用されているそうです。

ここに入寮している母子たちは恵まれない生き立ちであったり、心に大きな傷を負っていたりすることから、基本的な生活面での経験や知識の不足があり、それが自立への障害に繋がっているケースも多い、と説明して下さったのは母子支援員の田村慎司さん。「この施設を出るまでにはそれなりのことをしっかり教えて行きたいですし、社会に出て困った時に自分でSOSが出せるようになれば、それが自立かなと思っと思っています」。

「ひまわり」という施設の愛称は、入寮者と職員全員で考え、決めたものだと思います。太陽に向かい大輪の花を咲かせるひまわりのように、子供たちの笑顔が輝く場所になることを願って。

今回、施設の見学に同行して頂いた田中八郎選手インタビューは45ページに掲載しています。